



スポーツ庁

第5回 大学スポーツ協会作業部会

平成30年10月25日(木)

10:00～12:00

本日の作業部会の進め方

本日の作業部会の進め方

4テーマに関する質疑応答・決議を予定しています

時間	時間配分	発表者		議題
10:00～	10分	スポーツ庁	事務局	• 本日の作業部会の進め方
10:10～	20分	テーマ1	伊坂主査	• 入学前からの動機付けプログラム(案)
10:30～	20分	テーマ2	小林(勝)主査	• 学修機会の確保にかかる方針(案)
10:50～	20分	テーマ6	三宅主査	• 安全安心のガイドライン(案)
11:10～	10分	テーマ13	尾崎主査	• 広報戦略の策定・展開(案)
11:20～	35分	質疑応答・決議		
11:55～ 12:00	5分	スポーツ庁	事務局	• 事務連絡

議事(1)

入学前からの動機付けプログラム
(案)

立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長
伊坂 忠夫 氏

テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

制度案
の概要

- ① 3段階に分けた入学前教育の推奨プログラムの提示
→詳細は制度概要(次頁以降)をご参照

担当部署

学業充実委員会(仮)

開始時期

- ① 平成31年4月1日に提示

加盟に伴う
依頼事項の
内容

推奨事項とするため、該当なし

各大学
各学連
への
影響

- ① UNIVASが大学が行っている運動部学生・推薦入試学生向けへの入学前教育のステージに合わせた教育プログラムのひな形を提供することで各大学は効果的な入学前教育の推奨プログラムを入学前教育の参考とすることができる。入学前教育を行っていなかった大学にとっては実施のスタートポイントとすることができる。全国のUNIVAS加盟大学における事例の情報を得ることができる。先進的な取り組みの情報が共有されることで各大学にとっての底上げが期待できる。

テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

制度概要

資料①

学業①入学前からの動機づけ素案 2018/10/15 第4回作業部会用案



テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

制度概要

資料②

項目案(20項目)

ベーシックプログラム

1-①大学の理解と大学の学び

高等教育、大学となにか？大学の制度や評価、履修方法の理解。

1)高等教育の理解

わが国の最高教育機関、義務教育ではない。自らが希望して入学。

2)大学の理念の理解

各大学には理念がある。その理念に賛同して入学。理念の理解。

3)単位とGPA制度

単位制度の理解（自習時間の必要性）、成績評価の理解(高校との違い)

4)大学での学び方（選択授業と専門領域）

単位選択制の理解。学部で入学許可。一般教養と専門科目の理解。

1-②学生生活

指定された時間割でないため、自らの計画性が重要であることの理解。

1)大学生活と高校生活の違い

高校は時間割指定でクラス同一。大学は各自が異なるスケジュール。

2)目標設定（1年次、2年次、3年次、4年次）

社会に出る＝就職。4年ではなく3年の半ばから就活が始まる。将来目標。

3)タイムマネジメント（週間、日）

将来目標から逆算。授業外活動を含めた日、週間の時間管理の理解。

1-③キャリアプラン

自らのキャリアに関して就職活動だけでなくライフプランの意識付け。

1)キャリアとなにか

就職、その後の人生を豊かにするためにはプランの必要性を理解する。

2)キャリアの中の体育会活動

時間がない体育会学生ののための効率的活動と他者に無い長所の理解。

3)競技継続希望者の就活

理解のある企業、新規開拓、プロ志望者含め2nd,3rdキャリアの意識。

学生アスリートプログラム

2-①スポーツの理解(スポーツの教育)

多くの学生アスリートが理解していないスポーツの本質や価値について。

1)スポーツとはなにか（階層と種別）

高度化や大衆化、スポーツの捉え方の種別についての理解。

2)フェアプレーとインテグリティ

フェアプレー精神とスポーツの純粋さ高貴の理解。

3)スポーツの社会的価値

現代社会とスポーツの相互関係からスポーツの社会的価値を理解する。

2-②学生アスリート（学生アスリート教育）

大学に学生として入学。その中でアスリート活動で行っていることの理解

1)学生アスリートとは

学生の行うアスリート活動の理解。

2)社会の中の大学と個人（権利と義務1）

個人の権利とともに大学の一員として、社会に生きる者としての責務。

3)学業と競技活動（権利と義務2）

大学生は学業を修めることが目的であり、同時に競技活動を行っている。

4)なぜアスリートは評価されるのか

アスリートが評価されるのは競技成績ではない、その過程が評価される。

3 アスレティックマインド(アスリート教育の基礎)

アスリート活動を行う学生に対してパフォーマンスから学修意欲を高める

1)学修習慣とトレーニングの関係

学修習慣とトレーニングの類似性、その相関性を理解する。

2)栄養とトレーニング科学の基礎理解

パフォーマンス向上のための栄養知識の視点から科学的理解を促す。

3)トレーニングと回復の科学的理解

パフォーマンス向上のためのトレーニングと回復の関係性の科学的理解。

アドバンスプログラム

これらをテーマとした 1) ワークショップ, 2) 次回への課題提示, 3) 課題発表（グループワーク等）
指導者も教育補助者として参加義務化→高校へ内容+状況+成績等の報告（データ化）

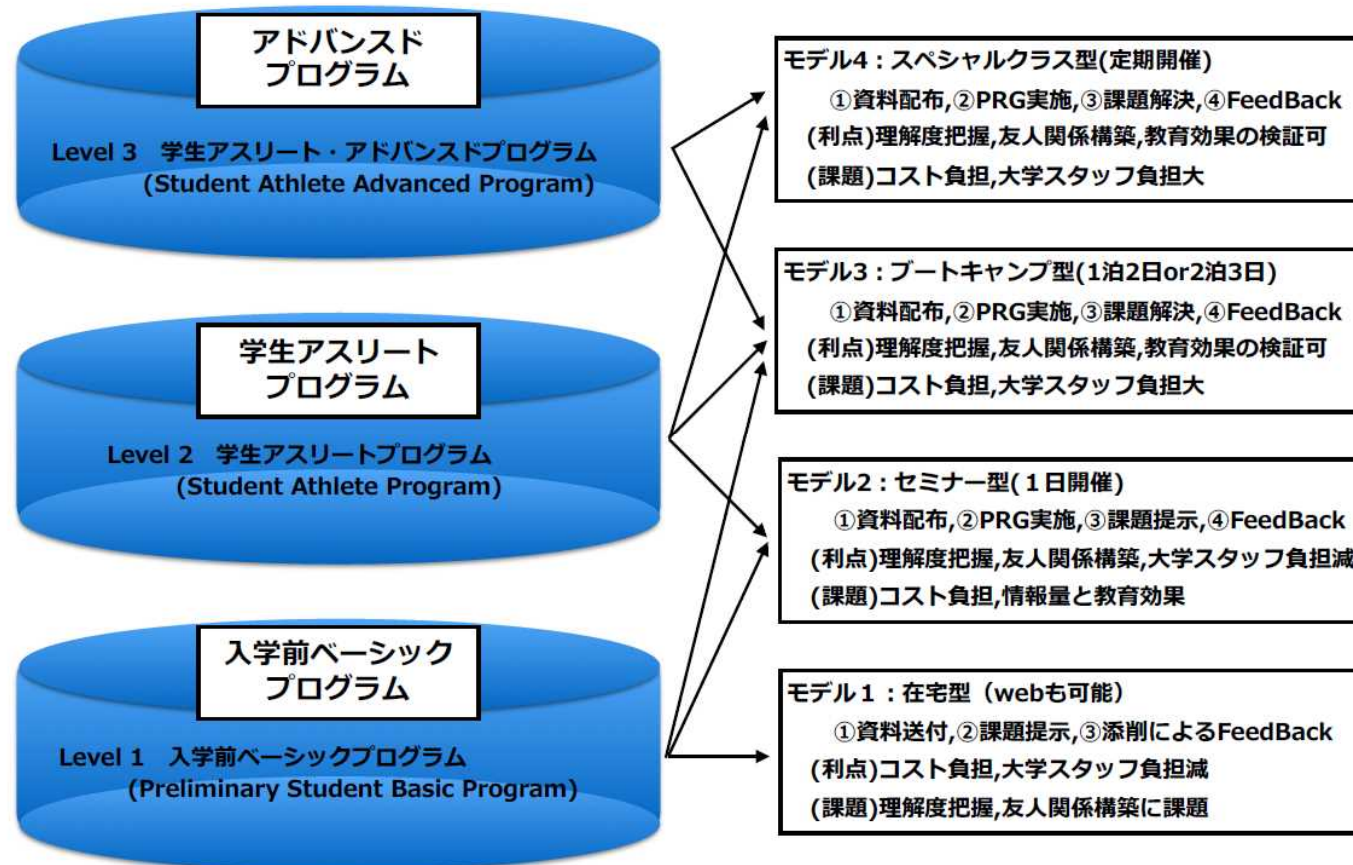
テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

制度概要

資料③

段階別実施モデル



最終目標：日本版NCAAの入学前プログラムを策定し各大学へ実施を呼びかけ

議事(2)

学修機会の確保にかかる方針(案)

全国大学体育連合 専務理事

小林 勝法 氏

テーマ

【学業充実】 学修機会確保

制度案の概要

- ① 学修機会確保の取り組み
→授業日の公式試合開催をさけるために、大学と学連との間に入り、大会日程調整をする。また、授業を欠席した場合の補習を求める。
- ② 指導者セミナー → 指導者倫理(コーチング哲学)と学業・アスリート教育の重要性に関する研修

担当部署

学業充実委員会(仮)

開始時期

- ① 大学 (1)2019年4月1日以降に順次提出、(2)2022年4月1日を目標に整備
学連 (1)2019年4月1日以降に順次提出、(2)推奨事項であるため、実施できる学連から順次対応
- ② 2019年4月1日以降に順次開催

加盟に伴う 依頼事項の 内容

- ① 適用対象: 大学／学連
依頼事項: 大学:(1)学事日程の提出、(2)欠席した場合には補習するなどの単位制度を実質化するための学内制度の整備
学連:(1)大会日程の提出、(2)参加証明書の発行(推奨事項)
- ② 適用対象: 大学
依頼事項: 学内でのセミナーの実施

各大学 各学連 への 影響

- ① 大学にとっては、授業を優先して大会日程を編成してもらえる可能性が高くなる。また、単位制度の実質化に向けて学内制度を整備できる。学連にとっては、大学の学事日程を一括して入手できる。学生が持っている「欠席による学業への不安」を軽減できる。
- ② 指導者へのコンプライアンス教育が徹底できる。学業との両立への理解が得られる。

テーマ 【学業充実】 学修機会確保① 日程調整

参考資料

日程調整の必要性

現在の課題	大学(n=645)	学連(n=100)
学業との両立	48.8%	52.0%
学事日程と大会日程の調整	35.8%	59.0%

UNIVASに期待	大学(n=645)	学連(n=100)
大学スポーツのスケジュール管理	31.9%	40.0%

出典：スポーツ庁「大学スポーツの振興に関するアンケート」
(2017年2月～4月実施、645大学・100学連回答)

テーマ

【学業充実】 学修機会確保① 日程調整

参考資料

大学の現状

- ・大学が大会日程を把握するのは運動部からの報告であり、その都度や月ごと、学期ごとなど。
- ・大会出場に欠席の扱い

試合の出場については、指導者及び学生の判断に任せており、規則はない。	25
該当する授業の担当教員に欠席願を提出している。処置は各教員に委ねられている。	21
原則として公式戦は公欠を認めている。	18
その他	5

(スポーツ庁「日本版NCAA(仮称)設立準備に伴う質問票」調査結果(2018年10月実施、69大学)

テーマ

【学業充実】 学修機会確保① 日程調整

参考資料

学連の現状

	全日本学連		地方学連	
	している	していない	している	していない
出場証明書や欠席 配慮願ひなどの発行	2	9	9	11
授業のある平日を避 ける試みに取り組み	6	4	17	5

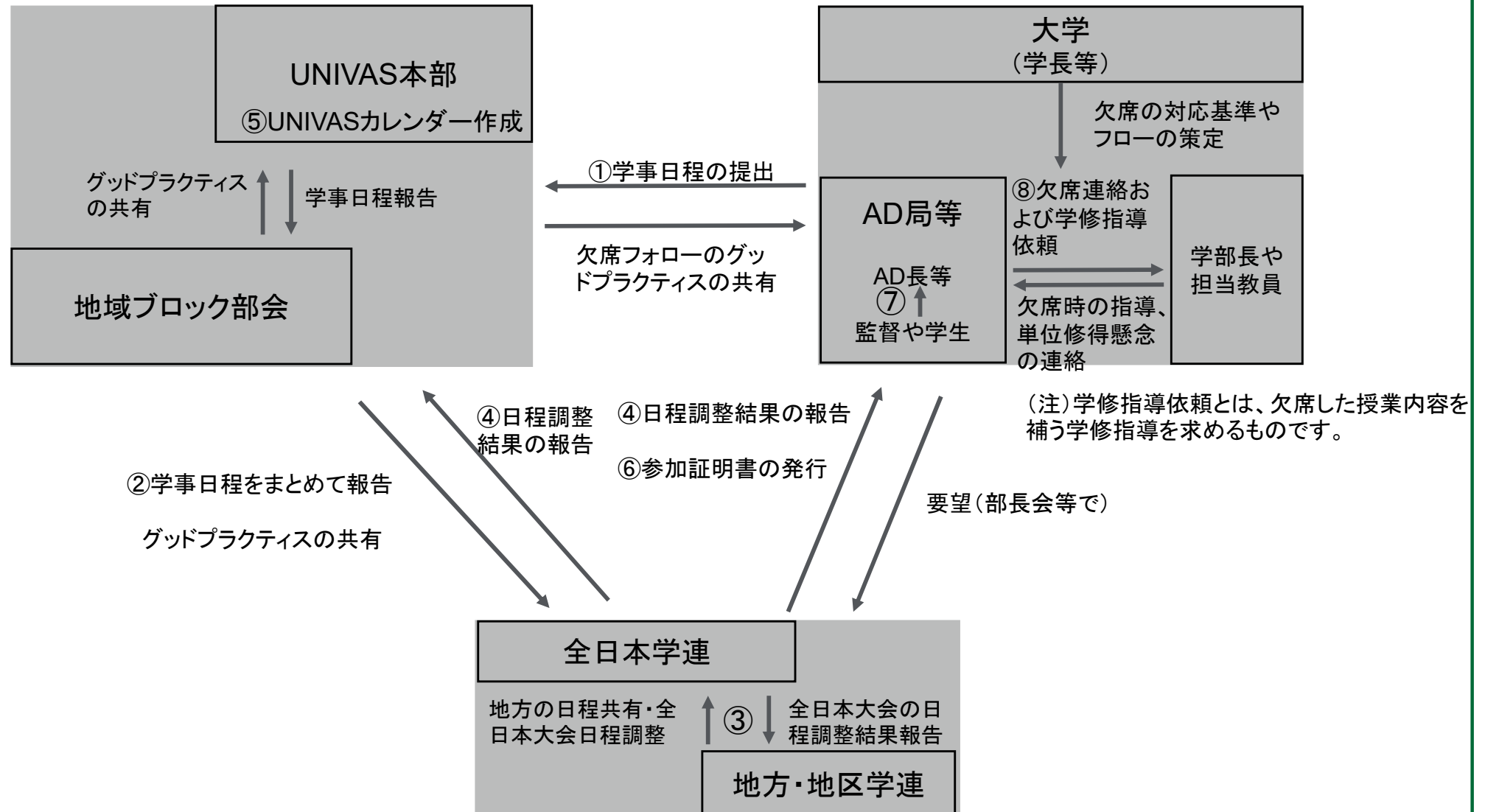
(スポーツ庁「日本版NCAA(仮称)設立準備に伴う質問票」調査結果(2018年10月実施、12全日本・24地方学連回答))

テーマ

【学業充実】 学修機会確保① 日程調整

制度概要

＜会員大学の学事日程を考慮したり、平日開催を避けるために、日程調整を行う。＞



テーマ

【学業充実】 学修機会確保① 日程調整

制度概要

UNIVASカレンダー(4月～翌年3月)の概要

ウェブ版

様式

ウェブサイト運営会社と相談する

内容

おもな大会・行事日程

印刷版

様式

A2判かB3判

内容

写真(加盟大学から提供してもらう)

おもな大会・行事日程

UNIVASモットーや表彰制度

選手を励ます言葉など

発行部数

???

経費

カレンダースポンサーによる協賛金

テーマ

【学業充実】 学修機会確保② 指導者セミナー

制度概要

指導者セミナー案

セミナー対象者

大学経営層
(理事長や学長など)

- UNIVAS総会を立ち上げ期と中間期等を開催し、大学に求める事や学修機会に対する理解を求めるシンポジウムを開催
- ⑩UNIVASの理念とビジョン

AD局、監督

- 地域ブロック毎にUNIVAS本部が回り、研修会を開催する。
- ⑩UNIVASの理念とビジョン
- 学業充実(①入学前教育、②学修機会確保、③学業基準、④キャリア支援)
- ⑥安全安心、⑧指導者制度、⑫大学SA支援・マーケティング・会計ルール

AD局スタッフ
コーチなど

- 大学内での周知徹底(⑩～④、⑥、⑧、⑫など)
- ○時間講習を義務づけ、実施報告(参加者数と率)を求める。

テーマ

【学業充実】 学修機会確保② 指導者セミナー

制度概要

指導者セミナーの研修内容案

(作業部会⑧で検討しているAD局長などを対象に行う指導者研修の内容の一部)

1. 指導者倫理(コーチング哲学)(90分)

①責任と危機管理

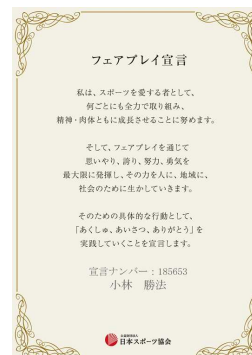
事例(事故や暴力)紹介、
学生指導(危険防止教育)の重要性
(アンガーマネジメント?)

②コーチング哲学・信念

グッドコーチに向けた「7つの提言」を
もとにグループディスカッション

③フェアプレイ

フェアプレイ宣言(JSPO)をもとに
グループディスカッション
署名を勧める。
学生にも勧めてもらう。



2. 学業・アスリート教育の重要性(90分)

①単位制度の厳格化

授業時間数確保(補講、予復習)
欠席時の学修指導の必要性
入学前教育

②デュアルキャリア支援の必要性

JSC「スポーツキャリア総合ポータル」
をもとにグループディスカッション



③人間教育・スポーツマンシップ教育

大学や学連の事例をもとにグループ
ディスカッション

テーマ

【学業充実】 学修機会確保② 指導者セミナー

参考資料

学産官連携協議会学業充実ワーキンググループの議論の概要

		← 短期 → 長期 →		
		日本版NCAAの具体的取組		
入学前	一般入試学生	入学前の学力確認の徹底 *入学年で成績措置は行わず、大学1年時の成績を加味して2年目以降での措置の実施を検討する *文科省で大学入試に関する新たなルールの設定(平成32年度から適用予定)		
	推薦入試学生 →	高校や高体連に対して学業とスポーツの両立の重要性を発信したり、意識合わせ	推薦で早期に合格した者に対して学業プログラムを提供	
在学時	学業・競技への意識は高いが、スポーツ活動で学業の機会が確保できない学生	大会や練習日程の調整 指導者の理解をどう創るか	授業との重複を避けるための試合日程の調整や会場の確保の支援	共通eラーニングプラットフォームの整備や単位化 土日開催のための施設整備を促進
	競技に偏重し学業に対する意識が低い学生	指導者の理解醸成 学業機会の確保	学業と競技の両立のための指導者セミナーを開催	指導者向けライセンス制度導入(既存制度の活用を想定) プラットフォームを活用した大学と指導者のマッチング機能の整備
	学業・競技への意識が高く双方に取り組める環境がある学生	表彰制度等で学業・競技を一層伸ばす取組を創設する	年間取得単位数の基準を策定	各大学での取組状況の把握・共有等 学業と競技の両立の重要性についての保護者や高校向けのセミナーを開催 取組状況を踏まえた更なる対応
	学業・競技への意識が高く双方に取り組める環境がある学生	表彰制度等で学業・競技を一層伸ばす取組を創設する	学業・競技・地域貢献の両立(3立)が重要であることの発信 各大学のベストプラクティスの収集・共有	学業成績や地域貢献に対する表彰制度を実施 表彰制度に奨学金等の報奨制度を付与
卒業後	アスリート就職	セカンドキャリアを見据えた教育の提供	大学キャリアセンターとの連携で提供すべきサービスを具体化していく	セカンドキャリアを見据えたキャリアデザインの作成等の支援
	一般就職	企業とのマッチングや情報提供	リーダーシップ開発プログラムの提供	OBOGの就職実績や就業後の活躍の企業への発信・PR

テーマ

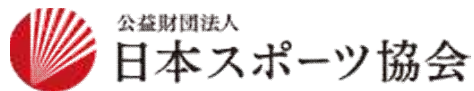
【学業充実】 学修機会確保② 指導者セミナー

参考資料

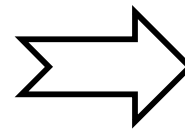
中長期的課題

JSPOや競技団体などの
公認資格で更新制の
指導者資格

JSPOの認定期間 4年間



UNIVAS
指導者
セミナー



UNIVAS
公認指導者

認定期間 〇年

UNIVASの開催要項に従い、
UNIVASのテキストを使って、
学内で実施し、
大学が修了証を発行する。
〇年ごとに開催する。

議事(3)

安全安心のガイドライン(案)

全日本学生柔道連盟 理事

三宅 仁 氏

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

制度案
の概要

- ① UNIVASとしての「安全安心ガイドライン」の公表
→詳細は、「資料2:安全安心ガイドライン(案)目次」及び「資料3:安全安心ガイドライン(案)サンプル」ご参照

担当部署

安全安心委員会(仮)

開始時期

- ① 平成31年4月1日より適用開始

加盟に伴う
依頼事項の
内容

- ① 適用対象: 大学、学連(NF)、地区学連
依頼事項: 当ガイドラインに比べ十分な安全安心にかかる制度(ガイドラインや指導者ライセンス等)をもたない団体にあっては、当ガイドラインを遵守することを求める
ただし、ガイドラインの項目ごとに3段階のランク付けを実施する予定であるため、すべての項目について遵守することを求めるものではないことに留意
例)Aランク:必ず守られるべき事項/Bランク:守られるべき事項/Cランク:守られることが望ましい

各大学
各学連
への
影響

- ① 十分なガイドラインをもたない団体にあっては、整備に必要となるコストをかけることなく、安全安心のレベルを向上させることができる。また、加盟団体が当ガイドラインを最低限遵守することで、大学スポーツの安全安心のレベルが底上げされ、その品質を一層向上させることができるため、大学スポーツ全体の信頼性を確保することができる。また、競技横断的なガイドラインを発行することは、競技間の情報交換を誘発し、現場にいる学生や指導者等の安全安心に対する意識をより一層向上させることも期待される。

テーマ 【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

制度概要

66種目の競技団体のデスクトップ調査を実施したところ、競技団体によって安全安心に対する取り組みには大きな差があり、NFと連携して安全安心に対する取り組みを強化している団体もあれば、ガイドラインも公表されておらず、個別の取り組みに終始している団体も散見された。そのような、バラつきがある中で、UNIVASとしての定める「安全安心ガイドライン」の位置づけを明確にしておく必要がある。

ガイドラインの位置づけ	メリット	デメリット
加盟するすべての団体のすべての関係者が遵守すべきもの	大学スポーツの安全安心を強固なものとするができる	- 既存のライセンス制度を通じて、指導者にさまざまな研修を課している競技団体にとっては、新たなガイドラインの強制適用は指導者に過度の負担を課す恐れがある - 負担の大きさから、UNIVASへの加盟に対し抵抗感を抱く競技団体がでてくる恐れがある - 強制適用する以上、競技団体が整備している最先端のガイドラインと遜色のない充実したガイドラインであることが求められる可能性があるが、短期間でそのようなガイドラインを整備することは困難である
加盟する団体の関係者が遵守することを推奨するもの	- 個々の団体における自治を尊重することができる - UNIVASに加盟することの障壁が低くなり、広く大学スポーツの安全安心を確保することができる	- ガイドラインが形骸化する恐れがある - ガイドライン拡充に対するプライオリティが低くなり、コストや様々な制約の中にあって、将来的にガイドラインの品質が低下してしまう恐れがある

当ガイドラインの位置づけ(案)

- ✓ すべての競技に共通したスポーツの安全・安心を担保するための普遍的な事項を記載するものとする
- ✓ 当ガイドラインよりも厳格な制度(ガイドラインや指導者ライセンス等)を整備・運用している団体にとっては、当ガイドラインの遵守を強制するものではないこと
- ✓ 十分な制度(ガイドラインや指導者ライセンス等)をもたない団体にとっては、当ガイドラインを遵守することを求める

議事(4)

広報戦略の策定・展開(案)

桜美林大学 スポーツ推進センター部長
尾崎 幹男 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 広報戦略の策定・展開

制度概要

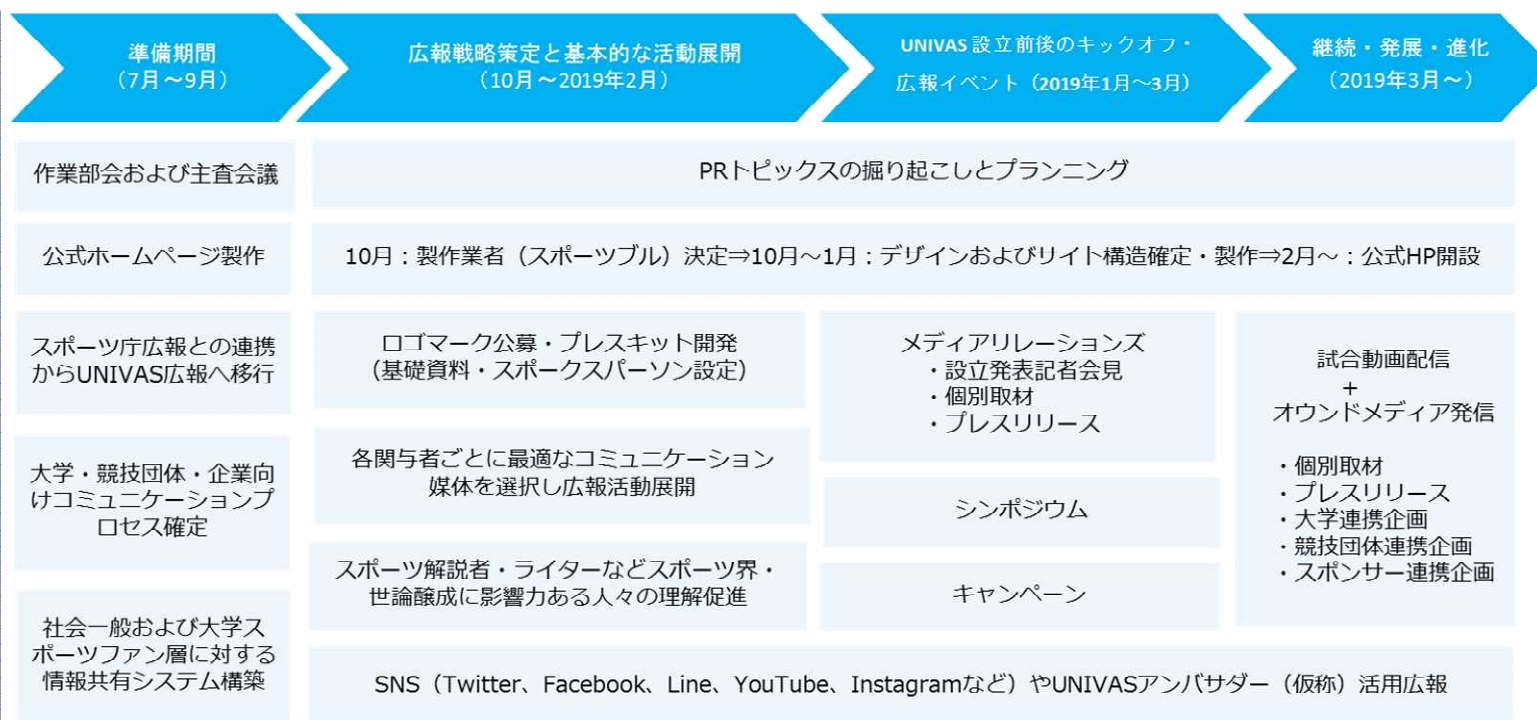
広報作業部会 の目標

- ・ UNIVAS設立に向けて認知のすそ野を広げ、その理念や社会的意義および事業内容を広く啓蒙していく
- ・ 大学（法人・学生）、競技団体、スポンサー企業など各関係者の知りたい具体的情報をタイムリーに発信する
- ・ 社会一般に対しても「UNIVASができることで日本の大学スポーツの何がどう変わっていくのか」をわかりやすく伝える

実現に向けて

- ・ 各作業部会との緊密な連携に基づき、継続的に広報戦略と施策を立案し展開する
- ・ 情報発信およびシェアードサービス提供の基盤となるUNIVAS公式ホームページを2019年2月に開設、また学生など若年層向けにSNSを活用して効果的なコミュニケーション活動を行う
- ・ 既存メディアを通じた幅広い情報発信と、UNIVASアンバサダー（仮称）などによるオウンドメディア情報伝搬を併走させる

戦略



目標達成

今後のスケジュールについて

11月までの会議体スケジュールと主な議題(予定)

5、6回作業部会においては、各テーマの制度案について、第3回準備委員会に付議する内容を決議します

	第2回設立準備委員会	第5回作業部会	第6回作業部会	第3回設立準備委員会
日程	10月22日(月) 10:00～13:00 (約3時間)	10月25日(木) 10:00～12:00 (約2時間00分)	11月5日(月) 10:00～14:00 (約4時間)	11月19日(月) 09:30～12:30 (約3時間)
会場	文部科学省 旧庁舎6階第2講堂	デロイトセミナールーム (新東京ビル7階)	文部科学省 旧庁舎6階第2講堂	文部科学省 3階第1講堂
主な議題(予定)	日本版NCAA(仮称)の 組織整備(案)①	第3回準備委員会の 付議内容確認 ① 入学前からの動機付け ② 学修機会確保 ⑥ 共通ルールの設定 ⑬ 広報戦略の策定・展開	第3回準備委員会の 付議内容確認 ③ 成績管理・対策、さらなる動機付け ④ キャリア支援 ⑤ 事故情報の集約化 ⑦ ガバナンス体制 ⑧ 指導者研修 ⑨ 大会レギュレーション ⑩ 個別データの管理・活用 ⑪ シェアードサービス ⑫ 大学SA支援等ガイドライン 組織設立の進捗及び今後の進め方	UNIVASの 組織整備(案)②
	パートナー・スポンサープロ グラム(案)			
	作業部会各テーマの 進捗報告			作業部会各テーマの 素案 (テーマ①～⑬)
	日本版NCAA(仮称)の 会員募集の説明			